

高齢入院患者における運転再開の現状について

桔梗ヶ原病院¹⁾, 杏林大学医学部総合医療学²⁾, 杏林大学医学部付属病院高齢診療科³⁾
○松塚翔司¹⁾, 園原和樹¹⁾, 佐藤理恵¹⁾, 須田広樹¹⁾, 平林亜美, 長谷川浩²⁾, 神崎恒一³⁾

【目的】 昨年の学会において、2015年1月1日から2015年12月31日の1年間の間に当院における運転再開プログラムを施行後の運転再開率が若年者を含む全体で40.0%である一方で、65歳以上の高齢者における運転再開率は11.7%と低いことを報告した。今回、高齢者における運転再開率が困難となる要因について検討した。

【方法】 2015年1月1日から2016年12月31日の2年間の間に、リハビリテーションを目的として他院より転院となった患者659名を対象とした。当院における運転再開プログラム（神経心理学的検査、視野検査、ドライブシュミレーター、教習所における実車運転の評価など）に準じたリハビリテーションを施行した患者についての検討を行った。

【結果】 期間中に他院より転院となった患者の中で、疾患発症前に運転免許を取得しており運転再開の希望のあるものは76名（平均年齢61.9±12.2歳、男性59名、女性17名）であり、内訳は若年者（64歳以下）40名、高齢者（65歳以上）36名であった。リハビリテーション施行後に運転再開が可能となった患者は全体で28名（運転再開率36.8%）であり、若年者では25名（運転再開率62.5%）、高齢者で3名（運転再開率8.3%）と、高齢者で運転再開率が低かった。対象となった高齢者における入院の契機となった疾患は脳血管障害33名、廃用症候群2名、整形外科疾患1名であった。また、高齢者における運転支援については、神経心理検査で中止が27名（75.0%）、ドライブシュミレーターで中止が6名（16.7%）、運転再開が3名（8.3%）と神経心理学的検査で中止となるものが多かった。

【結語】 運転免許取得者が入院リハビリテーションを施行後に運転可能と判断される割合は高齢者で低かった。高齢者における運転支援においては神経心理学的検査で中止となるものが多く、背景として加齢による身体的機能低下と高次脳機能障害（情報処理能力および注意機能の低下）の影響が示唆され、高次脳機能障害に対するリハビリテーションがさらに重要であるものと考えた。